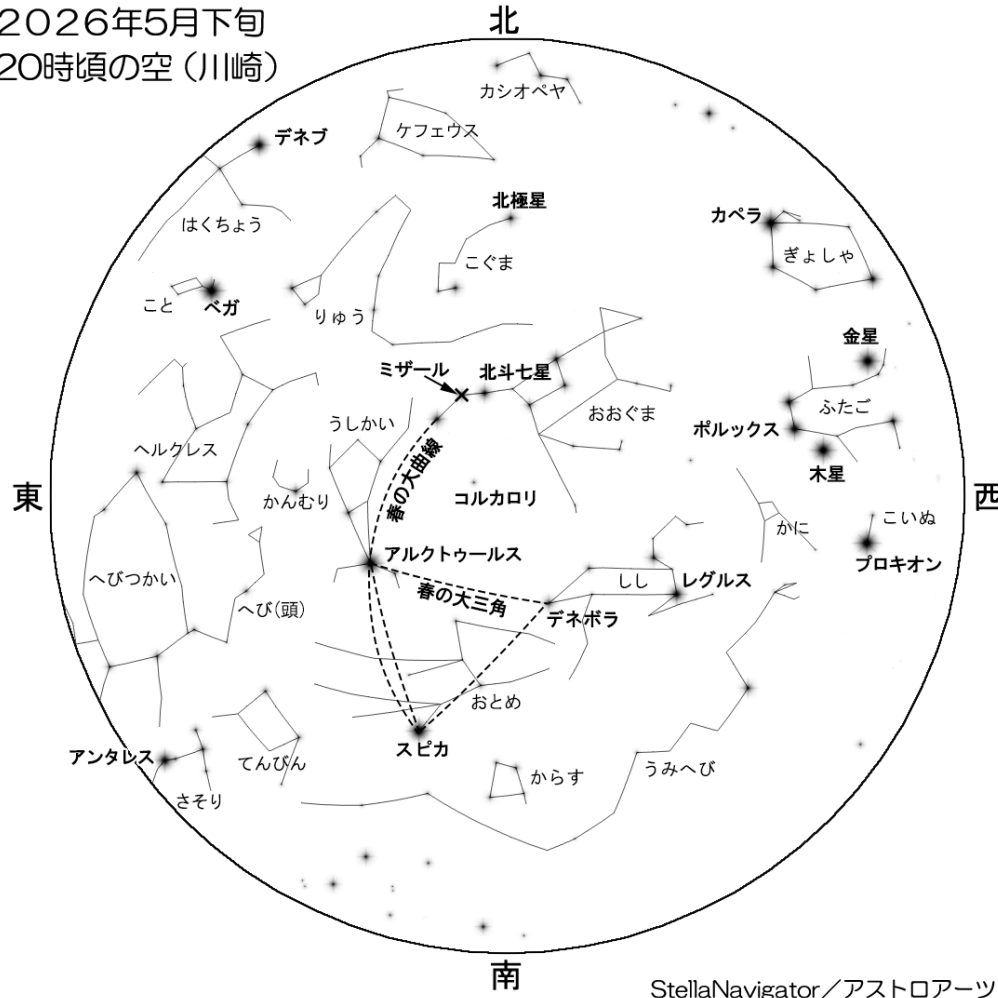


星を見るタベ

2026年5月23日(土)

*このリーフレットは科学館天文サポーターの協力により作成しています。

2026年5月下旬
20時頃の空(川崎)



2026年5月の星空

梅雨に入る直前の5月下旬の空は、おおぐま座の北斗七星から伸びる春の大曲線に沿って、うしかい座のアルクトゥールス、おとめ座のスピカとたどっていくことができます。これら2つの1等星とともに春の大三角を形作るデネボラは2等星で、しし座の尾に輝く星です。さらに、おとめ座の南側には全天で一番大きなうみへび座が、横たわっています。星座の大きさではこの時期に見えるおとめ座が2位、おおぐま座が3位です。

春の大曲線からさらに伸ばすと、からす座が見つかります。からす座の神話では、黒いカラスを天に打ちつけた釘が、4つの星として見えているといわれています。また、うしかい座の東どなりにはかんむり座もあります。

これからの天体現象

●注目現象

- 5月 27日 月(月齢 10.6)がスピカの南側を通過
- 31日 月(月齢 14.6)がアンタレスの南側を通過
- 6月 8日 日の入り後、金星とポルクスが最接近(西の空で見える)
- 9日 日の入り後、金星と木星が最接近(西の空で見える)
- 13日 月(月齢 26.9)と火星が接近(明け方 東の低い位置で見える)
- 16日 水星が東方最大離角(夕方 西の空で見ごろ)
- 17日 月、木星、金星が並んで見える(夕方 西の低い位置で見える)

●月の満ち欠け

- | | | | | | |
|----|-----|----|----|-----|----|
| 5月 | 23日 | 上弦 | 6月 | 8日 | 下弦 |
| | 31日 | 満月 | | 15日 | 新月 |

2026年5月の観望天体（予定）

【月】

今日は上弦の月です。向かって右側が明るく、日が経つにつれて満月へと近づいていきます。

月は太陽の光を反射して明るく見えますが、特に欠け際、つまり明るいところと暗いところの境目では、太陽の光が横から当たるため、クレーターなどの表面の凹凸が見やすくなっています。明るいところは昼、暗いところは夜です。境目付近の暗いところは、月が満ちていくにつれて太陽の光が当たり始めるところで、月での「朝」を迎えるところです。

月の満ち欠けは約29.5日周期で変化するため、月での朝から次の朝までは、地球での約29.5日に相当します。これから長い1日が始まる場所でクレーターを探してみましょう。

【ミザール（二重星）】

ミザールは北斗七星のひしゃくの柄の端から2番目の星で2等星です。ミザールのすぐそばには4等星のアルコルがあり、肉眼でも2つ並んで見える二重星ですが、偶然同じ方向に並んで見える見かけの二重星です。ミザールを望遠鏡で見ると、ミザールAとミザールBの2つの星が並んで見えます。望遠鏡の発明された17世紀に、お互いに重力でむすびついた連星であることがわかりました。さらに現在では、ミザールAとミザールBのそれぞれも連星であることがわかっています。

トピック

5月31日の満月は、今年の「地球から最も遠い満月」になります。でも、満月になる（地球から見て、月が太陽の反対側に来る）瞬間と、月が地球から最も遠ざかる位置（これを「遠地点」と言います）に来る瞬間は、同じではありません。

月は地球のまわりを、少しつぶれた楕円の軌道で回っています。そのため、月は地球に近づいたり遠ざかったりしながら動いています。さらに、月の軌道は太陽の重力の影響を受けて、少しずつ向きが変わっています。

5月31日の満月は「遠地点にとっても近いタイミングで満月になった」ために“今年地球から最も遠い満月”になるのです。

ちなみに今年の中で「地球から最も近い満月」は12月24日になります。実際の空で2つの満月を比較することはできませんが、この2つの満月を並べると、右の図のようになります。



出典：国立天文台

<https://www.nao.ac.jp/astro/sky/2026/05-topics02.html>

5月31日の満月は、12月24日の満月に比べて見かけの直径が約12パーセント小さい（見かけの面積は約23パーセント少ない）のです。こうして見ると、大きさの違いがよく分かります。



次回は

6月20日（土）受付時間：18:45～19:00

月とコルカオリ（二重星）を観察予定です。

先着順で整理券を配布します。プラネタリウムでの解説の後、番号順にアストロテラスへ案内し、望遠鏡で観察していただきます。

※雨天・曇天等観察が難しいと予想される場合は中止。

（開催の有無は、当日15時に当館HP・Xでお知らせします。）

星を見るタベ

の感想をぜひご記入ください。

（所要時間 1～2分程度）



かわさき
雷と緑の科学館
Kawasaki Municipal Science Museum
サイエンスプリン

ぷりんのひとことメモ



最近、ボタン一つで星を探してきれいに天体写真が撮れる望遠鏡があるんだって！

でも、「アストロテラス」の大きな望遠鏡をのぞくと、何光年も旅してきた「星の光」を自分の目で見るができるんだよ。デジタル画面では分からない、まるで宝石のような本物のキラキラを感じてね！

最新の科学館の情報は
ホームページ・SNSを
ご確認ください。

公式ホームページ



X



Instagram

